

第3回 口腔の解剖・生理とがん治療の口腔合併症の理解

開催日/会場/協賛：2010年7月25日（日）/学研ビル（東京・五反田）/サンスター株式会社

講師：大田洋二郎先生（静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科）

妻木浩美先生（静岡県立静岡がんセンター 摂食・嚥下障害看護認定看護師）

辻本好恵先生（静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 歯科衛生士）

口腔の解剖・生理とがん治療の口腔合併症の理解

静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 大田洋二郎先生



口腔の診察に必要な口腔内の各部の名称、嚥下のしくみを分かりやすく解説していただきました。また、唾液のはたらきと唾液の量が減ることによって起こる症状やその原因・治療、うがい薬だけでは殺菌できない口腔細菌は、スポンジやブラシで拭う必要性があることをお話しいただきました。



「がん治療における口腔ケアの実際 患者の日常生活へつなげるために看護師ができること」

静岡県立静岡がんセンター 摂食・嚥下障害看護認定看護師 妻木浩美先生



口腔ケアは、感染症の予防や症状の緩和、QOLの向上、また感染症予防や症状の緩和による医療費の軽減につながります。そのためにも、人口唾液専用のブラシを活用するなど、患者自身がセルフケアすることが重要であると話しいただきました。

がん治療におけるセルフケア（口腔ケア）指導

静岡県立静岡がんセンター 歯科・口腔外科 歯科衛生士 辻本好恵先生

患者さんは口腔トラブルが起きてからでは、痛みでセルフケアにまで気を遣うことが難しくなります。そのため、治療前からセルフケアを習慣化することが重要です。そして、ぶくぶくうがいとガラガラうがいの使い分け、ブラッシングはごしごしではなく振動させるようにすると効果的である等、具体的なケアの方法をご紹介いただきました。

